

工芸 (Industrial Arts)

本科	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担 当
一般科目	必修	2年	2	演習	山田 哲生
【授業の概要】 美術のジャンルである絵画、彫塑、デザイン、工芸を理解させながら工芸分野に重点を置く。その中で陶芸を中心に置いて制作実習を行う。併せて感性と工学の調和した作品の制作を考え、伝統技法や現代工芸、民芸等について関心を引き出す。					
【授業の進め方】 授業形態は制作を中心とし、創造性、技能、関心態度（集中力、精巧さ、持続力等）を高め、チェックリストと学習シートで確認する。					
【授業計画】	【授業項目】	【内 容】			
1回	工芸のジャンルと概要	現代工芸、伝統工芸、民芸の3つの世界とその発展の歴史についての講義。クレーモデルやファインセラミックスについてもふれる。レポート提出。			
2回	陶印制作 1	陶印の原型制作で、自己の風格を象形文字や篆書体で表し、石膏に彫刻する。のちのすべての自己制作品に押印させることを念頭に置いて作る。			
3回	陶印制作 2	同上			
4回	湯呑をつくる 1	手びねりで真っすぐな型の湯呑を作陶			
5回	湯呑をつくる 2	同上			
6回	湯呑を削る 1	出来た湯呑を専門的な道具で削り仕上げていく			
7回	湯呑を削る 2	同上			
8回	茶碗を作る 1	手びねりで徐々に角度をつけ茶碗を作陶する			
9回	茶碗を作る 2	同上			
10回	茶碗を削る 1	出来た湯呑を道具で削り仕上げていく			
11回	茶碗を削る 2	同上			
12回	皿を作る 1	手びねりでさらに角度をつけ皿を作陶する			
13回	皿を作る 2	同上			
14回	皿を削る 1	出来た皿を道具で削り仕上げる			
15回	皿を削る 2	同上			
16回	粘土を再製する	今まで削った粘土を再製し再び使用出来る粘土にする			
17回	粘土を再製する	同上			

18回	仮面をつくる	自分の顔をネックレスやブローチを想定し作陶させ彫塑の基礎と関連させる				
19回	仮面をつくる	同上				
20回	仮面をつくる	同上				
21回	オブジェ	その時タイムリーな出来事や物から共通のテーマを選び独自の発想で作陶する				
22回	オブジェ	同上				
23回	オブジェ	同上				
24回	オブジェ	同上				
25回	花入	手びねりもしくは固まりから一輪花入れの作陶をする				
26回	花入	同上				
27回	自由製作	今まで作陶したなかで、一番趣味を持ち又作陶してみたい物を選び作陶する				
28回	自由製作	同上				
29回	自由製作	同上				
30回	自由製作	同上				
【到達目標】	<p>工芸と人間の関わりが理解できる。 造形技能と感性の統一された立体やオブジェをつくる態度が身に付き、技法と制作方法の基礎を身につける。 身近に使う物を工芸の視点からつくることができる。</p>					
【徳山高専学習・教育目標】		C 2				
		【JABEE 基準 1(1)】				
【評価法】	<p>作品評価 意欲（10） 構想力（20） 表現力（20） 技能（20）</p> <p>態度（15） 準備物、集中力、精度、体の構え・物の構え・心の構えを中心に評価。当該項目を分かりやすく示し、自己評価を加味して評価。</p> <p>知識（15） 材料の知識 各国工芸の現状の知識 機械と手をうまく利用した作品の論評 工芸史</p>					
【テキスト】	なし					
【成績欄】	前期中間試験 【 】	前期末試験 【 】	前期成績 【 】	後期中間試験 【 】	後期末試験 【 】	学年末成績 【 】